

一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構  
平成29年度事業計画

## 第1 基本方針

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想（以下「構想」という。）は、原子力災害により産業基盤や雇用が失われた浜通り地域等において、復興に不可欠な廃炉の推進を始め、ロボット開発・実証拠点や国際産学連携拠点（情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設を含む。）の整備等によるロボットやエネルギー関連産業等の新産業の創出と関連産業の集積、先端技術等を導入した農林水産業の再生、さらには、人材育成や研究者等の定着、住民帰還の促進につながるような周辺環境整備等を進め、世界の人々が瞠目する地域再生を目指すものである。

構想は、平成26年6月の取りまとめから3年が経過し、この間、檜葉遠隔技術開発センターや廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟の本格稼働を始め、大熊分析・研究センター、ロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設、情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設の整備が本格化している。

さらには、平成29年5月には改正福島復興再生特別措置法が公布・施行され、構想の推進が名実ともに国家プロジェクトとして位置付けられた。

「一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構」（以下「機構」という。）は、構想推進の中核となる法人として、福島県によって7月25日に設立されたところであり、今後は県と連携しながら、拠点を核とした各種プロジェクトを始めとした構想の具体化を進めていかなければならない。

平成30年度以降の公益財団法人化を視野に入れ、福島県が今後策定する改正福島復興再生特別措置法に基づく重点推進計画において、機構が構想推進の実施主体として位置付けられることを目指し、設立初年度である平成29年度は、本格業務開始に向けた準備業務を中心に行うとともに、職員採用等による組織体制の整備を行う。

特に、福島ロボットテストフィールドについては、整備主体である福島県と連携し、効果的な活用や利便性の向上に向け、整備に先行した調査事業等を行う。

## 第2 事業計画

### 1 企業立地・産業集積促進事業

福島県が実施する「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想効率的産業集積に関する調査等事業」と連携し、生活環境、雇用状況等の関連情報に関する調査・情報収集、ホームページ作成等により、構想推進に資する企業向け誘致活動等に取り組む。

### 2 福島イノベーション・コースト構想情報発信事業

福島イノベーション・コースト構想及び福島ロボットテストフィールド等の関連拠点施設の周知を図るため、機構のホームページ作成、パンフレット作成、展示会出展、イベント（共催、後援等含む）等におけるPRを行う。

また、構想に関連する様々な分野にわたる企業や研究機関等による交流や情報共有等のためのシンポジウムを開催する。

#### 【出展予定の主な展示会等】

- ・ふくしま再生可能エネルギー産業フェア 2017（平成29年11月初旬）
- ・京都スマートシティエキスポ（平成29年9月下旬、けいはんな学研都市） など

#### 【シンポジウム開催予定】

平成30年3月（開催規模：400人程度）

### 3 福島ロボットテストフィールド管理運営準備事業

福島ロボットテストフィールドの運営を担うことを目指し、事業設計（業務内容、管理規程、訓練カリキュラム、使用人員・設備・施設、料金設定など）のための調査、検討を行うとともに、将来の施設運営を担う人材を採用して必要な技能習得のための研修に派遣する。

### 4 福島ロボットテストフィールド利用者開拓事業

福島ロボットテストフィールドの利用者開拓のため、各種広報媒体の活用や展示会への出展、ふくしまロボット産業推進協議会と連携した企業訪問等を行う。

また、福島浜通りロボット実証区域の利用を通じ、福島ロボットテストフィールドへの利用に誘引すべく、実証区域の取組に協力する。

さらに、公的機関、大学、研究機関等との連携を通じて、福島ロボットテストフィールドの利用者開拓を行う。

【出展予定の主な展示会等】

(1) 県 内

- ・福島ロボットテストフィールド発信事業 in 南相馬（平成 29 年 10 月下旬）
- ・福島ロボットテストフィールド発信事業 in 浪江町（平成 29 年 11 月下旬）
- ・ロボットフェスタふくしま 2017（平成 29 年 11 月下旬）

(2) 県 外

- ・2017 国際ロボット展（平成 29 年 11 月下旬、東京ビッグサイト）
- ・第 2 回ロボデックス（平成 30 年 1 月中旬、東京ビッグサイト）
- ・ジャパンドローン 2018（平成 30 年 3 月下旬、幕張メッセ）